

「東京ベイエリアビジョン」（仮称） の検討に係る官民連携チーム

活力と躍動感のあるまちWG 第1回提案

平成30年12月

目次

- 現状認識
- ワーキンググループでの意見交換
- 提案のキーワード
- 提案のコンセプト
- 提案内容

現状認識

【観光】

- 産業空間や水辺空間等 ⇒ 観光資源としての活用が不十分
- 宿泊施設が限定 ⇒ 日帰りとなるケースも
- エリアが広大 ⇒ 日帰り観光には時間が不足、リピーター少
- エンターテインメント施設、ショールーム、展示場など、多様な消費空間を有する

【交通アクセス】

- 都心部とのアクセス課題 ⇒ 気軽に訪れる場所ではない
- 街区が大きいエリア ⇒ 移動手段として域内交通不十分
- コンテナ車等の往来 ⇒ 観光と物流動線が重複
- 羽田空港や客船ターミナルを有し、世界とつながる玄関口

現状認識

【産業】

- 臨海副都心 ⇒ エンターテインメントや商業施設が中心
- 倉庫や工場が集積するエリアに対して、アートやデザイン関連の企業・人材が注目し、拠点となる施設を設置

【空間利用】

- 埋立地では昔からの居住者少 ⇒ 地元意識、コミュニケーション不足
- 商業施設には多くの来訪者 ⇒ 一方、公共空間の賑わい不足
- 画一的な土地利用 ⇒ 新たな価値の創造が起こりにくい
- 中央防波堤外側埋立地など ⇒ 土地利用が難しい地域も

ワーキンググループでの意見交換

会議風景



提案のキーワード

生きつづけるためのまち

オンリー湾

illusion (幻想)

非
日
常
感

FANTASY

和
風

夢

オープンなまち (オープンシティ)

最先端

人工的

ブランド

未来

JUMP

提案のコンセプト

まちやひとが

生きつづけるための

接点がある

- ・ 過去 と 未来 の接点
- ・ 今ある「もの」 と 新しい「モノ」 の接点
- ・ 日本 と 世界 の接点
- ・ この世 と あの世 の接点

■ 提案内容

- 1 何度でも訪れたいくなる
- 2 多様なライフスタイルを支える
- 3 シビックプライドを醸成する
- 4 未来への実験都市としての姿を描く

提案1：何度でも訪れたいくなる

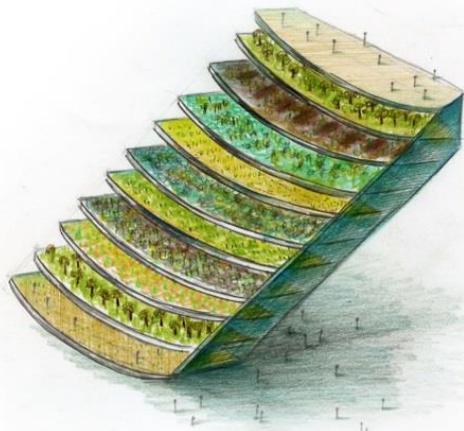
考え方

ベイエリアの弱みに見える「隔絶された立地条件」
⇒ 強みに変え、滞在型エリアへと転換

【① 日帰り観光地からの脱却。滞在型エリアへの転換】

臨海部の産業や水辺、
世界との玄関口の立地を生か
した魅力あるコンテンツの創出

< コンテンツの例 >



世界中の作物が育つ大きな棚田

その他：ガントリークレーン、倉庫群、
IR、海洋博物館、ナイトライフ など

非日常感のある
多様な宿泊施設の提供

< 宿泊施設の例 >



水辺のグランピング

その他：壁も天井もないホテル
コンテナホテル など

提案1：何度でも訪れたいくなる

【②和とテクノロジーの融合でグローバルの中のオンリーワンに】

- ・「日本＝先端技術の国」のイメージをカタチにし、消費者・来訪者が体感できるようにする
- ・アニメや伝統芸能と、最先端技術を組み合わせ、グローバルで突き抜けた「和風エクストリーム」を演出
- ・「レインボーブリッジ綱引き」や「コンテナかくれんぼ」など、日本文化を感じさせるコンテンツを企画・発信



提案2：多様なライフスタイルを支える

考え方

人口減少、少子高齢化、外国人の増加など
⇒ 多様な世代や価値観、ライフスタイルを支える

【①多様なニーズに応えるまちの受け皿づくり】

- ・高齢者向けではなく、最先端の分野を
高齢者が体験するまちをつくる

(例) エンターテインメント、eスポーツ、
スポーツカーのような超高速車いす、
ファッションショー など

- ・アートやデザイン、ファッション、
映画、音楽等のクリエイティブ産業や
人材が集う拠点を整備

(例) 水上アトリエ
大空間でクリエイターの作品を保管しながら展示 など



超高速車いす

提案2：多様なライフスタイルを支える

【②人と人とのつながり、コミュニケーションが生まれるまち】

- まちにあるものを利用してコミュニケーションツールをつくる
(例) 縁側のようなベンチ、本の無料貸し出し電話ボックス など
- まちの標識からレストランのメニューまで、
全ての人々が共通して認識ができる
グローバルなアイコンやデバイスを開発・提供
- この世にはいない祖先や偉人を最先端
技術で再現し、出会う機会を創出
(例) 過去のスターのホログラムライブ など



レストランのメニュー



この世にはいない
人との出会い

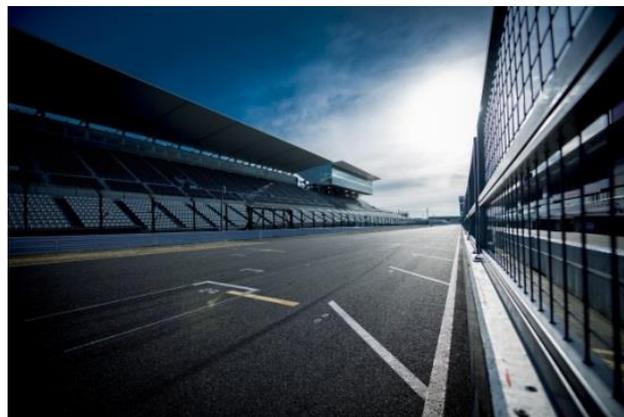
提案3：シビックプライドを醸成する

考え方

埋立地では、昔からの居住者が少なく愛着が根付きにくい
⇒ シビック（市民の、都市の）プライド（誇り）を醸成

【①バイエリア発のプロスポーツチームや世界的イベントの誘致】

- ・バイエリア発のプロスポーツチームを誘致し、地元密着型のイベントとして定着
- ・モータースポーツなど世界的イベントの誘致



モータースポーツ等の
世界的イベントの誘致

提案3：シビックプライドを醸成する

【②海があるまちを都民の誇りに】

- ・生きているうちからベイエリアに一生涯愛着を持てる環境づくり
(例) 海をより身近に感じられる景観づくり、
緑や花にあふれた霊園 など
- ・建築物や公園などの地域資源を一斉公開するイベントの開催



緑や花にあふれた
霊園のイメージ

【③ベイエリアを一体的に国内外へ発信】

- ・観光やまちの歴史、開発の状況、将来像などを展示できる
ビジターセンターを整備



ビジターセンターのイメージ

提案4：未来への実験都市としての姿を描く

考え方

埋立地だからこそ、人工的な極地へあえて向かっていく
⇒ 未来に必要な先端テクノロジーのアトリエ、実験都市

【①最先端技術の実験都市として地位を確立】

- ・大胆な規制緩和などにより、
ベイエリアを最先端技術の
実証実験の場に

(例) 空飛ぶクルマ、空飛ぶヒト、
1人1台のロボットパートナー、
宙に浮く建物、
酸素を生み出す巨大な緑が
空に浮かぶ など



酸素を生み出す巨大な
緑が空に浮かぶ



空飛ぶヒト

- ・特定の分野に特化した世界の最先端企業、大学、研究室
が集積した未来型オフィス、ファクトリーをつくる

提案4：未来への実験都市としての姿を描く

【②実験都市における企業、都民との関わり】

- ・最先端技術の社会実装に向け、企業が実施する実証実験のサポート、商業化に向けたイベントなどの後押し
- ・一般都民にわかりやすい B to C でのアプローチも展開



都民向けの自動走行車試乗会

【③既存の都市空間の再編を促す】

- ・用途制限のある地域において、ニーズに即した柔軟な土地利用を可能に
- ・公共空間を占有しやすくし、賑わい創出のための仕組みをつくる



公共空間の活用イメージ